令和６年度第１回稲沢市総合教育会議　会議録

１．日　　時　　令和６年７月 12 日（金）午後１時 30 分～３時 05 分

２．場　　所　　稲沢市役所　議員総会室

３．出 席 者

市　　長　加藤　錠司郎
教　育　長　広沢　憲治
教 育 委 員　伊藤　浩樹　吉川　繁樹　澤田　可奈子　森　誠子
　　大島　宏之

教育委員会
教 育 部 長　荻須　正偉
教育部調整監　森　　義孝
教育部次長兼庶務課長　大口　伸　　庶 務 課 主 幹　大﨑　敬介
庶 務 課 主 幹　犬飼　貴志
学校教育課長兼指導主事　松村　覚司　　学校教育課統括主幹兼指導主事　伊藤　尚
学校教育課主幹兼指導主事　林　　久人　　学校教育課指導主事　近藤　高弘
学校教育課指導主事　横山　光太郎
生涯学習課長　別府　正弘　　生涯学習課主幹　松尾　俊明
　　恒川　　浩
スポーツ課長　江頭　弘幸
図 書 館 長　塚本　ゆかり
美 術 館 長　長谷川　隆
書記　庶務課　長瀬　菜摘

４．傍聴人の数　７人

５．協議事項
（１）不登校の実態・対策について
（２）ＩＣＴ教育推進における課題について（情報リテラシーの観点から）
（３）文化財を活用したまちの魅力発信について

６．報告事項

（１）地産地消給食の取組みについて

ー　開　　会　ー

●庶務課主幹

定刻になりましたので、令和６年度第１回稲沢市総合教育会議を開会します。

はじめに、加藤市長からあいさつを申し上げます。

◎市長

本日はお忙しい中、令和６年度第１回稲沢市総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

この総合教育会議は、平成 26 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に基づき、設置が義務付けられました。

稲沢市では、平成 27 年度から、毎年度２回会議を開催し、教育上の様々な取り組みや課題について、教育委員の皆様からご意見、ご提言等をいただきながら、教育行政の推進に努めてきたところでございます。委員の皆さまにおかれましては、引き続きご理解、ご協力を賜れば幸いでございます。

本日の総合教育会議は、協議事項３点と、報告事項１点でございます。

協議事項は、「不登校の実態・対策について」、「ＩＣＴ教育の推進における課題について」、「文化財を活用したまちの魅力発信について」をご協議いただきたいと思います。「不登校」の問題については、稲沢市としても誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策を実現できるよう取り組んでおりますが、増加傾向にある現状がございます。次の「ＩＣＴ教育」については、情報があふれている現代社会において子どもたちが主体的に情報の取捨選択を行うことが非常に重要となります。また、稲沢市内には数多くの貴重な文化財が存在し、それらは私たちの歴史や伝統を物語る重要財産でございます。これらの文化財を活用し、まちの魅力を広く発信することは、地域の活性化にとって非常に重要な取り組みでございます。

教育委員の皆さまにおかれましては、ご専門の立場から率直なご意見をいただくことをお願いいたしまして、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

●庶務課主幹

本会議は、稲沢市総合教育会議設置要綱第５条第１項の規定により市長が議長を務めることとなっておりますので、会議の取り回しについては、市長にお

願いいたします。
◎市長
　それでは、規定でございますので、着座にて議長を務めさせていただきます。進行にご協力をお願いいたします。
　それでは、協議事項に入ります。「不登校の実態・対策について」を協議したいと思います。はじめに学校教育課から説明をお願いします。
●学校教育課長
　資料１をご覧ください。「稲沢市の不登校の実態と対策」について説明させていただきます。
　不登校児童生徒数については、１の（1）の表にあるように、年々増加してきており、令和４年度から令和５年度にかけては、これまでにない大きな増加となりました。令和５年度は中学校１年生と２年生が年間を通して大きく増加しており、全体の数を押し上げる要因となりました。学習に対する不安や、他の人との関わりに対する不安を抱える生徒が多くおり、それらの不安を和らげていくことが必要な対策だと考えています。
　３の稲沢市の不登校対策の（1）についてですが、各学校には、新たな一人を生み出さないために、誰もが安心して過ごせる学校・学級づくり、分かる喜びが味わえる授業づくりに取り組むよう、働きかけております。その具体的な取り組みとして、昨年度は、大里西小学校と稲沢西中学校の２校が稲沢市指定「魅力ある学校・学級づくり推進事業」を実施し、授業改善や認め合い活動の充実、一人一人の居場所や仲間との絆づくりを進めました。この内容については、生徒指導連絡会の場で紹介し、各校に取り組みを広められるようにしました。
　（2）の相談支援体制の充実ですが、スクールカウンセラーの配置を、今年度より市内の全校で小中連携配置としました。中学校に配置されたスクールカウンセラーが校区の小学校も担当することで、小学校から中学校へと継続的に相談を受けられるようにしました。特に生徒数が多い大規模校には、スクールカウンセラーを２名配置して、より多くの生徒や保護者が相談を受けられるようにしました。
　（3）の社会的自立に向けた学びの場の保障についてです。学校復帰を目指すことだけでなく、社会的自立を目指すため、学びの場の保障を進めることも学校に働きかけてきました。その結果、文科省調査の１つである「不登校児童生徒の学習機会に関する実態調査」において、学習の場がない不登校児童生徒の割合は令和４年度の 63 パーセントから令和５年度は 45 パーセントに減少しました。主な学びの場の１つとなっているオンライン授業に関しては、昨年度は

17名の活用申請がありました。中学校の別室対応については、これまでその時間に授業のない教員が対応していましたが、９月からは各中学校に別室対応に携わる校務支援員を配置できることになりました。

学びの場の１つであるフリースクールについては、昨年度から始めた「稲沢市小中学校フリースクール連携協力推進事業」により、申込のあったフリースクールの要件を確認の上、連携協定を結ぶことになりました。連携協定を結んだことにより、学校は不登校児童生徒の保護者にフリースクールの情報提供を行ったりするなどの連携を図りやすくなりました。この事業開始後、市内生徒の見学・体験の申し出が16件あり、現在、市内の利用者は８人となっております。

今後も学びの場の拡充を進め、学習の場がない児童生徒の割合のさらなる減少に努めていきたいと思います。

以上で説明を終わります。

◎市長

私からまず１点よろしいでしょうか。今、この数字を見てみますと、令和４年度は前年度に比べてそれほど大きく増えなかったにも拘わらず、５年度は急に大きく増えた。この原因は何だとお考えでしょうか。

●学校教育課指導主事

不登校が大きく増えている原因として我々が考えているのは、コロナ禍により子どもたちのコミュニケーションが十分取れなくなっていたことや、生活のリズムが崩れてしまっていることが一つの要因と考えています。また、発達に問題を抱える児童生徒も増えており、そういった児童生徒が学習についていけなかったり、周りの人とのコミュニケーションが上手に取れないことで、情緒的な不安を生み出したり、無気力につながったりしており、不登校が増えていると考えています。

◎市長

今のようなことが原因だとすると、例えばコロナが令和５年５月８日から５類に変更されて、コロナ禍によるコミュニケーション能力の低下や生活リズムの崩れということはだんだん無くなっていくだろうと思います。一方で、発達に問題を抱える生徒の数は増えていくかも知れない。４年度から５年度にかけての傾向と５年度から６年度にかけて、６年度がもう始まっているわけですが、今後の見通しはどうなのでしょうか。

●学校教育課指導主事

現在、これまで３か月間の不登校状況の調査を行っていますが、現状、昨年

度よりもさらに増加傾向にあるというところで、今後どういう対策を取っていったらいいかというところは、検討して進めていかなければいけないと考えています。

◎市長

なかなか不登校の増加が落ち着く気配を見せていないというところです。それでは、この不登校の実態、対策につきまして、委員の方々のご意見を賜りたいと存じますが、いかがでしょうか。

〇吉川委員

不登校の問題については、十分調べてきたつもりですが、市長さんにお願いです。全体に関わることで、2点部長さんにお聞きしたいことがありますので、よろしいでしょうか。

１点は、私のところに社会教育委員から連絡がありました。この会議に社会教育委員も参加しますということで、お二人の教育委員さんから、私も楽しみにしていますと返事をしたのですが、昨年12月にこの会議に参加することになったと返事をされたと聞いています。それで、確か水曜日部長さんと社会教育委員長の間でやり取りがあったと聞いていますが、その経緯について少しお聞かせいただきたいということ。２点目は、先日の７月２日の中日新聞の尾張版に、統廃合の記事が出ました。ここに書いてある見出しは、保護者再編すべき仕方ない８割というような見出しで、私に言わせれば、今継続審議中ですよね、教育委員会で。継続審議中であるにも関わらず、こういう記事が先走って出てしまったということについて、どういうお考えかということをお聞かせいただきたい。この２点、まずお願いします。

◎市長

今の発言は、直接は今日の会議に関係ないですが、簡潔にお願いします。

●教育部長

今２点ご質問いただきました。１点目は社会教育委員の方が今回総合教育会議に出席するという件ですが、去年の総合教育会議で地域学校協働活動が協議事項になりました。その内容については、山内社会教育委員長が非常に詳しいので、山内委員長を会議に出席させてはということを言われました。この総合教育会議は市長と教育委員会が意思疎通を図り、教育行政を進めることを目的として会議を行うものです。会議には関係者から協議する事項に関して意見を聴くことができますが、必ず専門的な人を会議に出席させるという話はしていませんので、その点につきましては、話をさせていただきました。

２点目の中日新聞の件ですが、取材があったことについては認識していまし

たが、記事が掲載される具体的な日時や内容については把握していませんでした。

〇吉川委員

水曜日に、今言われた委員長から私のところに電話がありました。部長とのやり取りの後です。かなりご立腹で、20分位私に話されました。この不登校の問題についても、社会教育委員の立場からでも十分専門的な意見がお聞きできたのではないかと私は思っています。そういうことも含めて、今後また検討していただけたらと思います。中日新聞の記事の件は、継続審議、３月に議決予定だったのを待ったをかけて、継続して審議してきているのです、その中で、こういう記事が出てしまったら、どういうふうに我々はこれから対応していけばいいのか。案のまま出してしまうのであれば、案のまま地域へ行って説明していただければいいじゃないですか。そういう話にもなるでしょ。ということを強く、また次の定例教育委員会で、続きはやりたいと思います。

では、不登校の問題について、まず質問させていただきます。一つは、稲沢市いじめ問題専門委員会とかいじめ対策委員会というのがあります。不登校対策委員会とか不登校問題専門委員会というのはないのでしょうか。２点目、別室対応支援員が９月から配置されるとお聞きしましたが、この方々の人選は進んでいるのでしょうか。そして、そういう支援員の方々がこういう不登校に対応できる方であるかどうか、この２点お聞かせください。

◎市長

不登校に関する理解があるかどうか。それから９月から配置予定とされている中学校の別室対応に携わる校務支援員に対するご質問ですが、よろしいですか。

●学校教育課指導主事

最初の質問について､不登校だけに特化した委員会は現在設置していません。２点目の校務支援員につきましては、現在広報等でも募集させていただいていますが、現状応募は少ない状況で、実際各学校からもふさわしい方がいないかという事で、校長先生を始めとする先生方に探していただいている状況です。教員免許を持たない方でもよいという形にしていますが、不登校に対応することを考えると、できるだけ生徒に接する上でふさわしい方が見つかるように、各学校にもお願いしているところです。

〇吉川委員

私が現職だった頃は、確かいじめ不登校対策委員会であったのですね。いじめの問題も大きいですが、これから不登校の問題も大きくなるだろうというこ

とで、そういう会議になったのだろうと思います。だから不登校対応についても十分やってきました。それから、今稲沢市のいじめ問題専門委員会の委員さん、私５名の方皆さん存じ上げているのですが、その中に不登校対応で研究してみえる方も見えます。そういう方々をぜひ活用していただきたいということをまずお願いしたい。また、私が調べたことで、いじめは複雑、多様化してきているということで、大きく８つほど原因があるということで、学校生活のトラブル、一番大きいのは何かと言うと、無気力が平成 27 年では 25.9 パーセントだったんです。ところが、令和３年度の文科省調べでは 50 パーセントを超えているんですね。何が言いたいかというと、コロナ前と令和３年はコロナの真っただ中だったかも知れませんが、その中で無気力という子どもたちが増えてきている。学校に行かなくてもいいんじゃないのという気持ちの子どもたちが増えてきているということが、一番大きな要因かなと思います。調べていくと、非行や遊びというのも結構多いですが、これは以前とあまり変わっていないです。何が言いたいかというと、無気力の子に対する対応をこれから真剣に考えていかないと、ますます増えてしまうのではないかな。いわゆる魅力ある学校づくり、私が地元の学校はどうだろうと思って調べました。令和５年度は小学校ではゼロでした。これは子どもたち楽しんで毎日通っているなと、これはうれしいことだなと思って、近所で遊んでいる子どもたちに聞いてみると、楽しいという答えが真っ先に返ってきました。それからいろいろな体験活動をして、教科指導だけでなくて、例えば実験デーというのがあって、そこで生き物探しをやったり、田植え体験、稲狩り体験などいろいろな体験活動をして、地域の人と触れ合ったり、いろいろな中で子どもたちは伸び伸びと育っているなということを感じました。そういう魅力ある学校づくりに向けて、どの学校も取り組んでいくという体制がこれから必要かなということを痛感しました。

◎市長

おっしゃるとおりで、これは私の考えになりますが、小中学校を通して、学校で教科を勉強したことはあまり頭に残っていなくて、いろいろな体験、教科以外の体験をしたことのほうが、思い出に残っていますし、今でも思い出すのはそういうことです。学校の教科、カリキュラムをしっかり遂行することが至上命題のようになって、私たちの頃と比べるとそういったカリキュラムを完全に消化するということに対する思いが強いように感じますが、できたらまさに魅力ある学校というのは、教科以外にいろいろな活動をする、そういう時間をなんとか先生方の努力で設けるということが一番子どもたちにとっても魅力ある学校になるのではないかと私は思っています。できましたら、各学校でいろ

いろと考えていただきたいと、私からも要望させていただきます。
　ほかにございますか。
〇森委員
　先日、青少年健全育成市民大会に参加しました。その時のお話の中で、子どもに寄り添うアタッチメントの話がありました。それは安心感の輪というお話でした。現在、不登校の子どもたちの安心できる場所は家庭なのか、学校なのか、そこのところが考えさせられるところだなと思いまして、資料１の中の不登校の子どもたちを見た時に、小学生が非常に増えているのが気になっていまして、この小学生の不登校の原因は学年によって違うと思いますが、原因の追究というのですか、先生方、周りの方が把握されているのか知りたいと思います。
◎市長
　例えば、小学校で原因別で不登校になる要因は、だいたいどんな感じか分かりますか。
●学校教育課指導主事
　小学校も中学校も、原因は調べさせていただいていますが、先ほどもありましたように主に小学生も中学生も変わらず、無気力や情緒的な不安が多くなっています。
◎市長
　無気力と簡単に言われましたが、無気力が何から起きているかは調べていますか。
●学校教育課指導主事
　それについては、先ほども説明したように、コミュニケーションが上手く取れなくなってきているとか、学習についていけなくなったというところからの無気力というふうに考えています。
〇森委員
　小学校、中学校の先生方の対応と言うか、どのように不登校になって、何日目かにこういう対応をしていますという、対応の仕方はどうなのでしょうか。
◎市長
　不登校の子どもに対する対応について、例えば何日間不登校だったらどういう対応をするとか、そういうのは何かありますか。
●学校教育課指導主事
　市内の学校で決めているわけではありませんが、欠席が連続して続くようでしたら家庭訪問したり、電話連絡でお子さんの様子を聞いたりします。欠席が

連続で２、３日続くようでしたら、欠席が続かないように、対応しています。
〇森委員
　不登校の子どもたち、保護者の方は安心感が必要かと思います。安心ということが一番大きいかと思いますが、その安心を得るために、保護者、学校、医療機関、この３つの連携が取れているところが一番大切かなと思ったりもするのですが、稲沢市の中に不登校児に対する学校側との連携を取っている機関というのはあるのでしょうか。
◎市長
　医療機関と学校の連携という点。不登校では直接はないかも知れませんが。例えば、そういう不登校が医療機関との相談が必要だという時に、連携は取れているかということ。どうでしょうか。
●学校教育課指導主事
　不登校の保護者から心配があれば、子育て支援課に相談が入り、そこから医療機関に紹介することもあります。また、実際に医療機関とつながった時に、必要があれば学校と医療機関で情報共有することもあります。
〇森委員
　今、ここに明日花、明日花東分室とありますが、在籍児童の中で、実際に出席している児童はどれくらいの割合でしょうか。
◎市長
　在籍者は 20 人程度とありますが､毎日出席して来るのはどれくらいでしょうか。
●学校教育課指導主事
　実際のところ、毎日出席できている子は数が少なく、４、５人、多いと 10 人位登校しているという状況です。
〇森委員
　この明日花等に通っている子どもの中で、学校に復帰した子はどれくらいいるでしょうか。
●学校教育課指導主事
　数としては非常に少ないですが、復帰している子も何人かはいます。
〇森委員
　ここに稲沢西中学校の中１ギャップ解消のためにという先生方が小学校と授業交流とありますが、これを見た時に非常に良い取り組みだなと思いながら、できれば子どもを自分の出た小学校へ見学と言うか、卒業した小学校に戻って自分たちがいた学校の子どもたちを見て、よし頑張るぞという気持ちになって

また中学校に戻ってみようという取り組みをされるとどうかなということを思って。あと、私の思うところで、先生方が、不登校の子どもたちもなのですが、それに取り組まれる先生方の負担が非常に大きいということを思っています。明日花にいた時に、先生方の負担は非常に大きいものだろうというのは感じていましたので、やはり先生方を補助するというか、先生方の対策も取っていかないと、言葉は悪いですが、共倒れではないですが、上手く回っていかないのかなと、先生方のフォローも必要ではないかなと思っています。

◎市長

私が聞いているところでは、学校に戻す、戻ることが究極の目的ではないというのが今の考え方のようです。学びの場がないというのが一番まずいわけで、学びの場がない児童、生徒が少しずつではありますが減ってきているという状況がある、それはいいことかなと。どうしても、無理やり学校へ行けと、そういう時代ではないというふうに聞いておりますので、明日花へ来ていただいて、明日花から戻れなくてもそこで自分の居場所が確保できれば、それで子どもたちにとっていいのかなと私も思います。

〇大島委員

今の委員の質問の内容と重なりますが、不登校の原因はいろいろあると思いますが、発達障害や何らかの精神疾患を持っている子どもさんとかいると思いますが、その中で医療機関を受診している子どもさんの割合はどれくらいあるかということと、それでどんな疾患で通院されているのかということをお聞きしたい。

◎市長

先ほども、コロナによるコミュニケーション能力の低下、あるいは生活リズムの乱れと共に、発達に問題を抱える子どもが多くなってきているという説明が冒頭ありました。その中で医療機関を受診している子どもの数というか割合は、分かりましたら教えていただけますか。

●学校教育課指導主事

具体的な割合までは把握できていませんが、実際に医療機関に掛っている不登校の児童生徒がいることは分かっています。具体的な数字は把握できていません。

〇大島委員

もし治療で少しでも改善が見込めるような場合でしたら、積極的に医療機関を受診してもらうとか、そういうこともこれから働きかけることが必要ではないかと思います。先ほど、無気力にもいろいろ内容があるのではないかと言わ

れましたが、確かにそのとおりで、小児の精神疾患の中にも治すことができるようなものもありますので、そういうことを早く見つけて、治療に当たってもらうということで、少しでも改善が見込まれるのではないかと思います。
◎市長
　発達障害ももちろんそうですが、早期に発見して医療機関等で対応できれば、それによって回復することも大いにあるということも聞いておりますので、教育委員会におきましても医療機関との連携もこれから積極的に行っていただきたいと思います。
〇澤田委員
　不登校を増やさない、未然に防ぐということも大切だと思っていまして、先ほど不登校が増えている傾向の原因の一つとして、コロナ禍におけるコミュニケーション能力の低下とおっしゃられたのですが、これもコロナが明け、日にちも大分経ってきています。子ども同士がどんどんコミュニケーションを取っていけるような、そんな状況をつくっていけたら、未然に防いでいけるのではないかと思います。よく子ども同士で悪気がない言葉一つで、相手も受け取り方が違って、そこからすれ違って、どんどんいじめと勘違いして、心が病んでしまう子どももいると思うので、そういった意味でコミュニケーションはとても大切だと思いますので、力を入れていただきたいと思います。あとは、保護者観点から言いますと、最初自身の子が不登校になったとき、担任の先生が窓口になるということで間違いないでしょうか。担任の先生も一クラス抱えていらっしゃって、自分の子だけじゃない、他の何人、何十人の子どもさんを見ている中で、我が子だけを見てもらっていいのかというそういう保護者の心配もあると思うので、求めようとしたら、どこか担任の先生とは別の、ここに相談すれば、連絡すればどこか紹介してもらえる、あなたたちにはここがいいんじゃないか、こっちがいいんじゃないか、そういった窓口があると、保護者も子ども自身も安心する場がつくっていけるのではないかと思うので、そういったものも前向きに検討していただけたらと思います。
◎市長
　先ほど、話があったように相談支援体制の充実というところで、スクールカウンセラーを小中連携配置としていますので、そういった方へつなげていただく、まずは担任の先生からでしょうが、その後はそういうところで、専門的なアドバイスを受けられればいいのかなと思います。それ以外にも、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を配置していますので、スクールソーシャルワーカーが今、大里東中、稲沢西中、平和中、そして心の教室相談員が稲沢

中、治郎丸中、大里中に配置していますので、そういった方々の活用も保護者の方にＰＲをお願いします。

〇伊藤委員

子どもたちって、案外孤立していない場合が多いですよね。というのは、私のところのパートさんの息子さんが不登校なのですが、友達がいるんです。学校へは行かないですけれど、家に友達が遊びに来る。不思議な世界なのですが、なぜ学校が嫌で、友達は良くてというところがあるので、その子を責めるのではなくて友達からもいろいろ事情を聞きながら、一歩踏み出せる状態をみんなでゆっくりやっていくことが必要なのかなと私は思っています。あと、小学校では今集団で登校していますよね。揉めごとは案外下校時が多いと。下校時が多いということは、集団下校ではなく学年別とか、友達同士で帰って行って、その間で何かが起きてしまう。それがいじめにつながったりいろいろなことが、あくる日お父さん、お母さんがやって来るとかということがあるので、これ全体話が変わってしまうのですが、スクールガードもいろいろやってくださっていますので、そういった方々が少しでも表に立っていただけるような関係づくりを進めていただけたらなと思っていますので、よろしくお願いします。

◎市長

登下校時、特に下校時にいろいろなことが起きるので、スクールガードの方々からの情報とかに学校のほうでも耳を傾けていただきたいということですので、よろしくお願いいたします。不登校というと、不登校自体がいけないことのような印象を、私たちもかつては持っていましたが、今では考え方が変わってきていまして、不登校自体が悪いわけではなくて、いろいろな特性を持った子どもたちがどこかで学ぶことが出来る、そういう学校、あるいは社会にしていくことが私は大切だと思っています。また、最終的には大人になって一人の人間として活動ができる、社会の中で生きていくことができる、そういう一人の人間になっていただくことが究極の目標だと思います。今様々な議論がありましたが、私としてはそういった長い視点の中で、小中学校の義務教育を稲沢市で行っていただくということでありますので、短期ではなく長期的に考えていただきたいということと、やはり社会や地域の方々も子どもたちの不登校ということに対して温かい目で見守っていただくことが必要なのではないかと思っております。はなはだ簡単な私の意見ですが、そういったことで不登校に対する議論は、まずここまでとさせていただきたいと思います。

それでは２つ目の「ＩＣＴ教育の推進における課題」について、情報リテラシーの観点からということで、学校教育課から説明をお願いします。

●学校教育課長

資料２をご覧ください。「ＩＣＴ教育推進における課題」について説明させていただきます。

１の「ＩＣＴ教育の現状」ですが、昨年度末、稲沢市は「第２期稲沢市学校教育ＩＣＴ推進計画」を策定し、令和６年度から５年間のＩＣＴ推進計画を示しました。その前、令和２年度から令和５年度までの第１期では、児童生徒一人一台端末やデジタル教材など、ＩＣＴ教育を推進していくための環境整備を進めるとともに、ＩＣＴ支援員を配置し、授業支援、環境整備、校内研修等を進めてきました。その結果、第２期推進計画の①から④の目標のうち、③のＩＣＴ活用環境の整備、④の校務のＤＸ化は、概ね整ってきました。

２の「情報リテラシーの向上にむけて」をご覧ください。これからは、②の教師のＩＣＴ活用指導力の向上と①の児童生徒の情報活用能力を含む情報リテラシーの向上を図る必要があると考えています。３の「稲沢市のＩＣＴ教育推進における検討課題」のうち、本年度は様々なデジタルコンテンツをスムーズに使用できるようにするための学習ｅポータルの導入、ＡＩ型ドリルを搭載したオンライン学習教材を導入していただき、さらなる充実を図りました。

４の「各学校におけるＩＣＴ活用の実践」ですが、子どもたちの情報リテラシーを向上させるために、各学校の学校経営案において、情報教育・情報モラル教育の全体計画や学年別の指導の重点を明確にしています。別紙１は、稲沢西小学校の内容です。別紙２は国分小学校の学校経営案の内容で、それぞれ抜粋したものです。それらの計画をもとに、小学校では各学年の発達段階に応じて、『ビスケット』や『スクラッチ』といったプログラミングソフトを活用しながら、プログラミング教育を進めてきました。また、タイピングや発表資料の作成など、ＩＣＴ機器を扱う上で必要となる基本的な技能についても、総合的な学習の時間や朝の時間を活用し、習得してきました。また、授業においても作文、画像保存、グラフ作成などに取り組み、ＩＣＴ機器を操作するための基本的な情報活用能力を育成してきました。

５の「稲沢市のＩＣＴ推進における課題」についてです。１点目として、現行の学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」につながる授業に向けたＩＣＴ機器の活用が挙げられます。与えられた情報だけでなく、主体的に、必要とする情報を集め､得られたさまざまな情報から適切な情報を取捨選択し、根拠に基づいた自らの考えを構築していく力の育成をしていかなければならないと考えています。また、タブレットＰＣを用いることで、クラウド上で簡単に多くの人と情報共有やグループワークができるようになりましたので、それ

らを活用しながら対話的な活動の充実を図り、深い学びへとつなげていくことも必要だと考えています。ＩＣＴ支援員のサポートをより充実させ、児童生徒の情報リテラシーの向上に力を入れていきたいと考えています。

２点目は、ＩＣＴ環境のさらなる充実です。タブレットの積極的な活用に伴い、機器の故障や破損も多くなっているという点が挙げられます。子どもたちの学びを止めないためにも、引き続き迅速な対応を求めていく必要があります。また、さまざまなシステムの年度更新への対応、通級指導などで使用する教室のインターネット環境の整備も挙げられます。

３点目として、教員のＩＣＴ指導力の向上が挙げられます。ＩＣＴを活用して指導できるかの調査結果を載せさせていただきました。稲沢市で導入していただいているさまざまなシステムを授業で十分に使いこなすために、引き続き教員の指導力向上を図る必要があると考えています。

６のまとめですが、第１期推進計画により、ＩＣＴ環境が整い、児童生徒の基本的操作を含む情報活用能力を高めることができました。これからは主体的に学習を進める上で、児童生徒の情報リテラシーの向上は必要不可欠となります。教員の指導力とともに向上させていけるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います。

以上です。

◎市長

ＩＣＴ教育推進における課題ということですが、日本の社会がＤＸ、デジタルトランスフォーメーションという点で非常に遅れていると言われていまして、そういうことを少しでも解消するために一人一台のタブレットＰＣの配置を国の主導の下で行ったわけですが、５番の稲沢市のＩＣＴ推進における課題はまさにこういったことを進める市の責任が、非常に胸に突き刺さる所がある訳ですが、最初に導入する時もそうでしたが、なかなか国が十分な財源を与えてくれていないのは事実です。この金額で国はやれるというのですが、実際にはその倍以上掛かるという状況です。当時はコロナに対する地方創生臨時交付金があって、そういったものも利用して一人一台のタブレットＰＣの配置ができたわけですが、今度これが壊れた時あるいは、また入れ替えが必要になった時に国はどうしてくれるのか、地方自治体の首長としては国の責任でやったのに、どうして国がしっかり見てくれないのかという思いが強いところです。そういった様々な課題を国に伝えていく、文科省はじめ国に伝えていくのも私たちの仕事だというふうに思っていますが、私として一番気になるのは、５の(3)教員の指導力の②のところです。平成 30 年は全国 69.7 パーセントの中で、稲沢市

が 68.7 パーセントということですね。これが令和４年度になると、全国は 78.1 パーセントとどんと増えているのに、稲沢市はほとんど変わっていなくて 68.9 パーセント。ただ、令和５年には、なぜかよくわかりませんが、73 パーセントになったということで、教員の皆さんの指導力が稲沢市においては十分に伸びていないのではないかということが、私はある意味非常に心配です。これは導入の最初から言っていますが、先生方の研修もしっかりしていただいて、ＩＣＴ支援員に頼ることなく授業が行えれば。本当に困った時には支援員に頼るのでしょうけれど、そういうことが非常に大切だと思っています。その点について、まず私の質問ですが、何か答えはありますか。

●学校教育課指導主事

教員の指導力の変容についてですが、稲沢市では令和３年度にタブレットが導入され、全国より少し遅くスタートしたということがあります。その中で試行錯誤しながら、先生方にタブレットを活用していただき少しずつ力量が向上してきたという現状がありますが、全国平均と比べて現状パーセンテージは少ないです。実際にいくつかのアンケートで総合的にパーセンテージを出していて、その概略を見てみますと令和４年度から令和５年度にかけて、数値が少し上がっていると思いますが、その中のグループワークや話し合いにおけるＩＣＴの活用を取り入れながら指導ができると回答した教員が１年で 15 パーセント位上昇しているという現状もあります。ですが、もっと子どもたちが主体的に授業でタブレットを活用して授業を進めて行く、その指導力という部分のアンケートではあまり上昇が見られませんので、ようやく環境が整いましたので、これからそういう所に力を入れていく必要があると考えています。

◎市長

お互いに教え合うこと、この分野で能力のある方から比較的能力の劣る方が教えてもらうというような環境の整備を、教員同士でやりやすい雰囲気をつくっていくことが大事なことだと思っていますので、そういった学校内の環境の融通のしやすさを取り入れてもらいたいと思います。ＩＣＴについて委員の皆様ご意見があればお願いします。

○伊藤委員

僕は、この５の①の主体的、対話的で深い学び、これはどの学校へ行ってもしっかりこの言葉が出てくるのですが、実際子どもたちは案外先生からの質問で、これ調べなさいと言うとインターネットで調べてそれが答えとして出てくる場合が非常に最近多いと伺います。だけど、これはテレビの言葉を使ってはいけないですが、はて？これはいい言葉だ。考えるということです、自分でも

う１回。考えて少し疑問に思いながら、なぜだろうと。それが多分主体的で、これを元に対話をする。これが続いて深い学びになっていくと思うんですね。先生たちも一生懸命やってみえて、慣れるところから始まって、今やっと機械に使われているのではなく、自分で使えるようになって来たかなあ。子どもたちはあっという間に、そういうことをやってしまうので。だから、何が言いたいかというと、子どもたちも大人も、もっともっと疑問を持って、考えて、はてはて？と思ってほしいなと思いました。

◎市長

私は、主体的、対話的で深い学びという言葉があまり好きではなくて、どうしてこんなことを言うのだろうとずっと、今でも思っています。どういうこと、主体的って。自分が自分でやろうとすること、それにプラス対話的、誰かと話をする、それが深い学びにつながるのか。言葉はいいけれど、本当にどういうことを具体的に言っているのか、というのが私の感想でして。甘い。この言葉に深く納得しないのが私です。文科省が言っているから必ず正しいとは限らないとずっと思っています。そういうことが大事だと思います。文科省が言っているから絶対正しい。調べたら、こうやって出てきたからこれが正しい。インターネットで調べたらこうだったということではなくて。お互いに疑うという、はてな？という気持ちが大事だと私も思います。

澤田委員、子どもさんのタブレットに対する対応や学校の対応について、どうでしょうか。

◎澤田委員

情報モラルは、よく学びとしてやってくださっているなというのがあって、子ども同士の話の中でもこういうことをすると危ないよ、後ろにこういう物が映っていると個人情報が漏れたりするんだよという会話が聞こえてくるくらい情報モラルが定着してきているのはよくわかります。私が今心配しているのは、情報リテラシー、これをとても心配していて。先ほど委員が言われたように、調べるとパッと答えが出てくるのですが、本当にそこで子どもたちには、はて？がないんですよね。出てきたものを本物と捉えて、それが噂になってどんどん広まって、大人が聞いたらそれは違うよねと、すぐわかることでもそれを信じ切っているんですよね。それがすごく怖いなと。これは教員の先生方の指導力向上とおっしゃられましたが、それとは別に本当にそれが本物かどうか考えてみた？の一言があるだけで、リテラシーにつながっていくので、今すぐにでも始められることかなと思います。まだ知識が薄い小学校低学年だと難しいと思いますが、高学年や中学生なら本当にリテラシーがこの先重要になると思いま

すので、早急に進めていただきたいと思います。
◎市長
　最近、生成ＡＩが出てきて、これは本当のものかと思っても、実は合成だったりするわけで、すぐに信用しないということをまず教える。人間を信用しないということを教えるなんてどうかと思いますが。でも人間性善説と性悪説とあるように、このＩＣＴというか、ＡＩの社会ではまず疑ってかかることも大切だということも思いますので、先生方もそういう教育はしっかりと子どもたちに。インターネットで調べて最初に出てきたことはだいたい宣伝だったりするわけです、通常は。よく調べると、宣伝だったりするわけです。そういったことも、よく子どもたちに教えていただきたいと思います。
　ほかにございますか。
○大島委員
　先日、学校訪問で明治中学校に伺いまして、私は学校を卒業してから本格的に学校を訪問するのは初めてで、授業を見せていただいたのも多分初めてだと思いますが。ついつい自分が中学校の頃のことを思い浮かべて、比べてしまって、目から鱗と言いますかびっくりしました。一番びっくりしたのは、先生と生徒の関係が非常に近いというか、私がまだ小学校、中学校の頃は先生は雲の上のような存在で、何か言えばすぐに小突かれるか手が飛んできました。今の様子とは全然違います。２番目はＩＣＴと言いますか、生徒が皆一人ずつタブレットＰＣを持っていて、先生が何をやれと言うわけでもなく、グループで４人で一つの机を囲んでやるような教室もあったのですが、それぞれお互いに生徒同士が話し合いながら、かなり主体的にというか、私の頃とついつい比べて主体的にやっているなと思いました。先生はもちろん、いろいろなアドバイスをされるわけですが、それに先ほど市長が言われた５の(3)ですね、教員のＩＣＴを活用する指導力、これが先生が指導する立場でついて行くのは大変だなと思いました。先生もよくやっておられるし、中学校ですので教科担任制で、それぞれの教科の内容についてのいろいろなシステムを取り入れて、授業を展開されているところを見せてもらいまして、先生を教育することもこれから益々大事になって来るのではないかなと思います。それともう一つ、タブレットの中に入っているソフトですね、それも厳選されたものをできるだけ新しいもので取り入れて、アップデートな内容でやっていくことがこれから必要だと思いました。また次回もぜひ見学させていただいて、いろいろなことを吸収したいと思いました。

◎市長

私も、タブレットが導入された最初の頃に学校にお邪魔した時は、やはり若い男性の先生が圧倒的に指導力があって、どうしても高齢の女性の先生がＩＣＴに対する指導力が欠ける所があるということで、私はそれ自体は決してどうこう言うつもりはないのですが、それを補う体制が学校の中でできればそれでいいんだろうなと思うわけです。全ての人が大人になってＩＣＴに関わって仕事をするわけではないので、それはそれで私はいいと思うのですが、国がいろいろと言うものですから、私ももっとやらなければいけないと思ってやるわけですが、もう少し幅広い考えでもいいのかなと実は私は思っているところもあります。

ほかにございますか。

○吉川委員

先ほど他の委員が言われましたが、私も明治中学校に学校訪問して、目から鱗ぐらい、情報、ＩＣＴ教育が進んでいるなと。私、校長に給食の時間にタブレットで説明を受けたのですが、聞き流したものですからもう一度その資料を送ってほしいということで貰いました。簡単に説明していきますが、教員と生徒、保護者がみんな一体化しているなと思いました。学校の方針としては、授業での活用、それから教員研修での活用、校務での活用、この３つを中心にやっていると。ほとんどそれがきちんとなされていたのです。例えば、授業での活用でこんな意見、面白いことに校長先生が明日学校訪問にたくさんみえますと、ＩＣＴを使って良かった点は何ですかと生徒や教員に、前日に投げかけたらいろいろな答えが帰ってきた。即効性というのはものすごく大きいんですよ。どういう答えが帰って来たかというと、理科の授業では、スカイメニュークラウドで各グループの実験結果が比較できる。いわゆる実験結果を自分たちでまとめて、みんなで一斉に比較できるんです。相当な時間短縮がここでもできるということ。それから、学級経営や委員会では、キャンバですか、キャンバを使って掲示物を作成、生徒の表現の幅が広がった。これは教員の意見ですね。英語、これも教員ですが、チームズを使って音読の課題を出せる。いわゆる自分の音読を吹き込んで、正解率を判定してくれる。英語力の向上に役立つ。ここの発想がおかしかったです。いわゆるＡＩみたいなものですね。こんな活用ができる。いろいろな活用をしてみえました。それから、オンライン研修。どこの学校も授業研究をしているのですが、私はかつて、いい所悪い所どんどん付箋を貼っていってくださいとやっていました。ここでは驚いたことに、先生方みんなタブレットを持って参加しているのです。導入、展開、まとめのどの

欄でどうだったかという意見を全部書き込むのです。そうすると、授業後の研究協議の時は、それが一緒に一斉に全部見られるのです。そこから議論が始まるということは、すごいなと思いました。それから、連絡掲示板、いわゆる校務支援ですね、それぞれの担当職員が事前に書き込めば、朝の打合せはこれを見るだけでいいんですね。だから、他のことに時間を使えるというようなこと。これもすごいなと。それから、出張の先生や非常勤の時短の先生が途中から来ても情報が共有できます。これもすごいなと思います。それから、ペーパーレス会議。これは、ほとんどタブレットです。資料は１学期で職員会議で 100 枚使うんです。全体だと 3,500 枚の紙を削減できたということも言ってみえました。それから、保護者への負担軽減ということで、生徒環境表もこれに記入してください。生徒環境表も手書きではない時代に来ているなと思います。いろいろなことで、非常に勉強になりました。私はリテラシーは最初から持っていなくて、習うより慣れろ、学校の体制をつくってしまえば全部上手くいくだろうというふうに私は思いました。それから、百聞は一見に如かずで、聞いただけでは何も分からないけれど、自分の目で見ればよくわかったなと。校長先生が盛んに言ってみえたことは、学校の職員の力だけでなく、ＩＣＴ支援員の力が大きいと。ＩＣＴ支援員にこんなことが出来ないだろうかと尋ねると、これならできますよと支援してくれたと。無料のソフトが、私が聞いたのは、パドレット、これは連絡掲示板、カフートと言うんですか、問題を作成して解答ツール。キャンバはデザイン作成、ノートはホームページの作成などに利用している。ここからが、市長さんへのお願いです。課題ということもありましたので。予備のタブレットがほしい。落としたり壊したりすると、その子だけ使えなくなるということがあります。武道館にＷｉ-Ｆｉを設置してほしい。１年生に配付する準備を早めてほしい。１年生は５月からしか使えないと、１か月間何をやっているんだということ。それからＩＣＴ支援員のおかげで活用の幅が広がったので、毎週来てもらっていたのが、今は月に２回ですか、少しわからないですが。これも毎週来ていただけたらありがたいなということ。もう一つは手書きペンが欲しいという意見が出ていましたので、ここで紹介させていただきました。

◎市長

頭が痛いところです。予備のタブレットのこともずっと前から言われているのですが、なかなか難しいところがありまして、国にも要望していかなければいけないと思っています。やはり、故障することもある。それから落として棄損することもあるということで、そうした部分もということ。それから先生方

のタブレットも、国がきちんと面倒を見るべきだと私は思っています。思っていますが、市の単独のお金でどうかと言われると、本当にたくさんのお金が掛かってしまいます。常に財政と、すでに今回ＩＣＴ支援員を実は削減しています。今回、６月議会でもあったので、実は教育委員会に怒ったんです。どうしてかというと、予算査定で、市長査定に挙がってこなかったんです。私のところにくる前に、財政課で切られてしまったということがあったそうです。私のところまでくれば､もう少し何とかしたんだけどと思うところもあるのですが。行政の中のことですので、いろいろなことがありますけれど、どういう状況であっても子どもたちのことをまず第１に考えてしっかりやれるように私としてはしていきたいと思っていますので。私もそんなにＩＣＴは得意なほうではなくて、自分でもよくわからないことを言っているに過ぎないのかも知れませんが、子どもたちにとっては、非常に大きな部分を占める活動の一つだと思いますので、しっかり対応していきたいと思っています。

〇森委員

私も 12 年ぶりに中学校の授業風景を拝見してきました｡その中でタブレットを使っている姿にワクワクしながらというか、拝見したのですが、ただタブレットを使って授業を受けている子どもの中にも得意とする子とそうでない子の差があるのかなという印象を受けました。やはり、生活環境で自宅でパソコンに触る時間の多い子、あれっと思ったときに身近に聞ける相手がいることは結構大きいのかなと思って見ていました。今日の新聞に、教科書のデジタル化という記事がありまして、その中で先生方のアンケートを取ったところ、それを使っているのは３パーセント、４パーセントと非常に低い値だったのですね。文科省は 2028 年度には 100 パーセントに引き上げると書いてあるのですが､それは先生方については厳しいのかなという気がしています。結局、中でも教科書とデジタルを併用してやっているのが 60 パーセント、70 パーセントで、これが一番本当の姿なのかなとも思いました。これで授業が上手くはかどるのであれば、私はそれでいいのではないのかなと思ったのですが。やはり文科省も作業に慣ない教員もいるため、今後の普及に工夫が必要だと思っているというのを読んで、先生方が稲沢市のＩＣＴの推進に向けた課題に取り組まれるのは本当に大変なことだなと思いますので、新聞を読んで、この課題を頑張って進めていただきたいと思います。

◎市長

デジタル教科書、英語では３パーセントだという記事がありましたので、対応をよろしくお願いします。根本的に学校の机のサイズとか、問題があると思

っていますが、一気に学校の建て替えは出来ませんので、順番にやっていくしかないのですが、今のタブレットがあって、教科書があって、副教材があってという状況で、それが乗るような机の大きさや子どもたちの体格もありありますので、根本的に改めなければいけないことがたくさんあると思っています。そういったことも考えながら進めて行きたいと思っています。

時間があまりなくなってきましたので、３番目の「文化財を活用したまちの魅力発信」について、生涯学習課から説明をお願いします。

●生涯学習課長

資料３、１ページをお願いします。

今までの文化財活用事業として、主に市の補助金を活用して修繕を行った文化財を対象に行っている文化財公開デー、５年に一度の周年事業として、令和５年度は性海寺様のご協力を得て、性海寺所蔵文化財の特別展を開催しました。また、毎年、「稲沢まつり」に併せて開催しております「中高記念館の一般公開と稲沢の文化財展」、文化財防火運動に絡めて「文化財防火デー」、「稲沢梅まつり」に合わせて開催しています「史跡尾張国分寺跡ウォーキングツアー」を開催しております。

２ページに行きまして、無形民俗文化財については祖父江の虫送り、国府宮のはだか祭、こがし祭り、山崎地蔵まつりがあります。文化財の展示においては、図書館、ソブエルにおいて展示を行っております。その他、商工観光課主催の美濃路稲葉宿元気マルシェ、国分寺マルシェにて稲沢ふるさとガイドの会の皆様の活動で国分寺の収蔵庫を開放しています。

３ページに行きまして、課題として文化財の活用方法、無形民俗文化財の後継者の確保、文化財の展示方法などがあります。

今後の展開として、今年度初めて、７月７日の日曜日に商工観光課が開催した「ウイキペディアタウン稲沢」にて中高記念館を開放いたしました。また、都市計画課が 10 月 20 日の日曜日に開催する「ぶら愛知」にも協力する予定です。

また、文化財マップでは、コアなファンだけを対象としているため、中学生が「ふるさと新発見学習」で作成したマップを参考に、柔らか目のマップを作製していきたいと考えています。参考として、現在の文化財のマップ、中学生が「ふるさと新発見学習」で作成したマップを添付しています。

以上です。

◎市長

私は歴史が大変好きで、歴史のことに非常に興味があるのですが、なかなか

ふるさと新発見学習のときの子どもほど大人がしっかりわかっていないということがあります。先日の中日新聞に載りました。７日にウィキペディアを稲沢が行って、新たに中高記念館のページができたということが新聞記事に載っていました。

この文化財について何かございますか。

◎吉川委員

中高記念館について、先日文化財保護審議会もありましたが、２日間開放されるということで、「ぶら愛知」の紹介でしたか、今大河ドラマなどで赤染衛門の話が、碑も建っていますね平和堂の東に、この資料をピックアップ、いわゆる宣伝効果というのですか、今大河ドラマでもとかいうことで大きくＰＲして何か展示の工夫がされると皆さん集まるかなと思ったのですが、一つだけ残念なことは教育委員さんから何か提案事項はありませんかということで、私は資料も用意して、これ朝日新聞のコラムに信長が生まれたまちへの期待という記事が出ました。勝幡城ですね。勝幡城の発掘調査を真剣に考えてみてはどうかというコラムなんです。これは友達が私に見せて、稲沢市はこれやらないのかと言ってくれましたので少し紹介しましたが。これにはやはり県の協力、又は愛西市との協働とかいろいろなことがありますが、文化財保護委員にも専門的な方もおみえですよね、石田先生とか。そんなこともあって、これをぜひやれば、それこそ市のＰＲになるかなあと、そして発掘調査でいろいろなものが出てくれば、素晴らしい機会、歴史好きの方もたくさんいますので、埋蔵文化財のボランティアにもどんどん参加してくれるのではないかなと、私の予想ですが。水曜日に私の所に議案書が届いて、私のは没か。没になりましたという説明が一言もありませんでした。それがショックでした。

◎市長

千田先生のコラムは、私も拝見しましたが、あそこで発掘して本当に何か出るのか、難しいところだと思います。あそこは古い時代から流れていた川が何本かありますが、そこの辺りを掘れば必ず何か出てくるというものではないのではないかと思います。少し時間がないので、他の方の意見を聞かずに、私の想いを述べさせていただきたいのですが、今年の大河ドラマは光る君へということで、たまたま赤染衛門が前半は非常によく出てきました。今はあまり出てきませんが、これ凰稀かなめさんという宝塚のトップスターが演じていまして、実は凰稀かなめさんを呼んでトークショーをやろうとして、ＮＨＫと交渉していたのですが、どうしても日程が合わなくて実現できませんでした。そういうことで、これで稲沢市をなんとか盛り上げたいという気持ちがあって、やって

まいりましたがそれが難しかったということ。ただ、歴史のボランティアガイドの会の方がいろいろと今やっていらっしゃって、非常に高名な学者の方も来ていただいていますので、そういったものに参加していただいて、勉強していただくといいのかなと思います。平安時代に今まで脚光が当たることはあまりなかったのですが、今回たまたま赤染衛門、大江匡衡の奥さんとして２回この尾張の国の国司として来ていらっしゃる方が、大河ドラマの主な役を演じるということがありましたので、この機会にしっかりＰＲしていきたい。もう一つ、次の年、来年は大河ドラマは、蔦屋、浮世絵の話らしいですが、次のその次の年は秀吉の豊臣兄弟ということで、豊臣秀吉とその弟の秀長の話だそうです。そこでまた信長は脚光が当たると思います。もう一度そこへ向けてどういうアプローチをしたら良いか、私としては考えたいと思っています。今勝幡城跡の碑は２個あります。大きいほうの碑について、危ないので改修してもらうようにロータリークラブにお願いしています。この改修が今年度中にできないかなということで、今やっていますので、ご了承いただきたいと思います。そして、どこかで開発の工事があれば発掘が出来たらなと思いますが、あまり期待できないのではないかというのが、私の正直な気持ちです。勝幡城が難しいのは、一つは愛西市との境にあって、両市が協力していかないと稲沢市だけ先に出るのはなかなか難しい。石田さんはまさに愛西市の生涯学習課に勤めてみえた方で、そういった問題があるということで、そういったことを乗り越えてやっていかなければいけないと考えていますので、よろしくお願いします。ＮＨＫの大河ドラマは社会的に非常に大きな影響力がありますので、こういったものを活用してしっかりとＰＲしていきたいと思いますし、中高記念館もそうですが、なかなか一般的に顧みられることは少ないので、様々な機会をとらえて、またぶら愛知も、これは数年前から国土交通省がやっている事業ですが、協力して稲沢でやりたいと、私はやりたいとずっと言ってきたのですが、今年度やれることになりましたので、もしできれば参加していただければありがたいと思います。

時間が無くなってきましたので、お一人の意見だけ聞いて申し訳ありませんが、次の「地産地消給食の取組みについて」のほうに移りたいと思います。報告事項ですが、よろしくお願いいたします。

●庶務課長

資料４、５をご覧ください。

地産地消給食の取り組みについてご報告させていただきます。

学校給食における地産地消の取り組みは食育の一環といたしまして地域の歴

史や自然、農業などを地域への理解を深め、より深く郷土への愛情を育むことなどを目的として取り組んでおります。

具体的な取り組みといたしましては、愛知を食べる学校給食の日の年３回の給食週間に桃かぶや銀杏きしめんなど地元食材を活用したメニューの提供のほか、環境に配慮した農作物の利用を目的として、稲沢緑風館高校の生徒が無農薬で栽培しましたサツマイモや化学肥料や農薬の使用量削減に取り組む市内産の特別栽培米を提供しております。

またオーガニック給食に対する関心が高まっている中で、数量の確保や価格が高いことから提供回数はこれまで限られておりますが、有機ＪＡＳ認証を受けました食材としてバナナやレンコンを提供しております。

資料の最後に６年度の年間計画と６月までの実施状況をまとめた資料をつけておりますのでご覧ください。品目に緑の網かけがしてある食品が新たな取り組みになっております。４月に春キャベツを、６月に株式会社オリエンタルが開発いたしました華麗なるスパイスを使用した鶏肉の唐揚げを提供しております。資料４表面の下段と裏面に、それぞれ春キャベツのメニューの写真と鶏肉の唐揚げについての新聞記事と写真を掲載しております。

また今後の予定といたしまして、有機ＪＡＳ認証を受けた食材として新たに県内渥美産、田原市産と聞いておりますがキャベツとブロッコリーを１月に提供する計画をしております。

説明は以上です。

◎市長

今、地産地消給食の取り組みについて説明がありました。１月に出る有機キャベツと有機ブロッコリーは近くのものを出せるといいなと思っていましたが、残念ながら渥美産ということで、少し遠いですが、愛知県内産ということで、なかなか有機ＪＡＳは難しいもので、なかなかないのですが、そういったものを全国学校給食週間に提供したいと考えていますので、レンコンは昨年も行いましたが、ご家庭でも子どもさんがお見えになる方は、ぜひご注目いただきたいと思いますし、今後もこういった取り組みの回数を増やしていきたい。なるべくできるように、少し食材の確保が今難しいのですが、そういうことでお願いしたいと思います。

こういったことに造詣の深い澤田委員、何かご意見がありましたらお願いします。

○澤田委員

前回、せっかくこうした取り組みをしているのに、保護者にこうした取り組

みをしていることが広まっていないというふうに意見をさせていただいたのですが、広報で大きく取り上げていただいて、ありがとうございました。オーガニックに興味があるもので、体に入れるものはいいものでないと、今添加物で言われているのが障がいを起こしたり、アレルギー体質を起こしたりということが言われていますので、できればそういったものを避けていいものを子どもたちに食べさせたいという想いが強い保護者の一人ではありますが、そういったものを手に入れることが本当に難しいということはよくわかっています。なので、できれば市を挙げて、稲沢市には有機の農家さんがいらっしゃらないと思いますが、そういった農家が増えていくことを願いつつ、昨年全国オーガニック給食協議会が立ち上げられましたので、そういったところも利用して一歩ずつ進めて行っていただきたいというのが強い想いです。

◎市長

ほかにございますか。

◎市長

よろしいですか。約束の時間が来てしまいましたが、本日用意してある協議事項はここまでですが、何かほかにご意見がありましたらお伺いしたいと思います。

◎市長

よろしいでしょうか。様々なご意見を承りました。最初に吉川委員から話がありました社会教育委員との会合ですが、昨年度初めて私と社会教育委員が対話をする会を行いました。今までやったことはなかったのですが、毎年１回はやりたいと思っていますので、またその時に意見をいただければ、お互いに対話をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。総合教育会議は先ほども言いましたように、他の委員を招くことができるという規定になっていますが、本来は首長と教育委員との対話の会議だと考えていますので、別途そういう機会に社会教育委員からのご意見も承りたいと思っています。そして、皆さんが一番お聞きになりたいと思います稲沢の学校施設整備基本計画についてでございますが、私は非常に子どもの数という点だけに着目すると、非常に危機的な状況が今来ていると思っています。これが本当に実際そうなのかどうかということは、後になってみないとわからないかも知れませんが、直近の数字で行くと令和５年度に生まれた子どもの数が分かりますので、それでいきますと令和５年度に生まれた子どもが小学校１年生になった時の各小学校の今の時点での推計が出ています。やはり 50 人台になる学校があるということがございます。少ないからどうのこうの、先日実は、石川県の珠洲市の市長の話

を聞きました。珠洲市は８校小学校があって１校も廃校していないそうです。そういう所がある一方、川を越えた祖父江のすぐ向こうの海津市は大幅に統廃合を進められました。様々な条件がそれぞれ違うと思っていますし、私は当然教育にも施設を整備するということでは責任を持たなければならない立場ですし、都市の経営者としての責任もあると考えています。子どもたちの教育にとって一番いいこと、一番いいと思うことをしっかり今後も進めて行きたいと思いますし、それにご理解がいただけるまでに時間が掛かるのであれば、しっかり時間を掛けて進めていきたいと考えていますので、私のこの件に対する意見として今のようなことだけ申し上げておきます。

○吉川委員

市長のお考えもあると思いますので、私は新聞の見出しが非常に気に入らなかったということです。担当者のいい所取り、ここだけ言っておけばいいだろうという。何かと言うと、私の所にメールが来たのは、これはあまりにも恣意的だろうということとこれは印象操作ではないかということと世論操作だということ。いわゆる８割が賛成という、見出しに出ているんですよね。これが非常に大きいということで。ああ仕方がないわねそれでは、という方もみえているんです。もう一つは、８割という隣に同じ見出しで、保護者は通学は 30 分以内が 90 パーセント、９割ですよ。９割の方は 30 分以内に通える所に学校がなければいけないと言っています。スクールバスを使っても。同じようにそこにも見出しがあれば、祖父江で小学校が１つ、２つでは 30 分は無理だよねと考えるようになって来るのではないかということが言いたかったんです。あまりにも偏り過ぎた報道は私はいかがなものか、これだけは市長の前ですが言っておきたいということです。

◎市長

報道機関は、一般的には逆の誘導をされると思います。おそらく、そういう意見が両方あったら、そちらのほうを大きく書かれるのではないかと私は思います。それをそうしなかったのは、中日新聞の記者の考え方があって、それは市役所から言って書かれることではないのではないかと私は思います。

○吉川委員

９割というのは、ここにも出ているんです。

◎市長

であれば、そこのところは記者の判断で、印象操作だったらむしろ逆にそこのところを書かれるのではないかと思います。

◎市長

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

●庶務課主幹

ありがとうございました。ここで、次回の開催日時についてご案内させていただきます。次回開催日時は、来年２月 27 日の木曜日、午後１時 30 分、会場は本日と同様、議員総会室を予定しております。改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、これをもちまして、第１回稲沢市総合教育会議を閉じさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

－　閉　　会　－